

自治労青年女性オキナワ平和の旅 事前学習



←2022年度の内容ですが、
動画でもご覧いただけます！



自治労青年部・女性部

「オキナワ平和の旅」の目的

まずはじめに👉

① 太平洋戦争・沖縄戦の歴史

② 沖縄の基地問題

➤ 過去の歴史をまなび、

今なお続く基地問題を考えよう

➤ 憲法や平和、民主主義を守るために、

私たちが何をすべきか考えよう

太平洋戦争と沖縄戦①

■ 1941.12.8 日本軍の真珠湾攻撃で太平洋戦争開戦

■ 1945.3.26 米軍が慶良間諸島上陸

・本島上陸までに空襲や艦砲射撃で約4万発の攻撃

■ 1945.4.1 米軍が沖縄本島（読谷村・北谷村）上陸

・日本軍の抵抗はほとんどなく「ピクニック」のように上陸

・兵力が少なかった沖縄北部は4月中旬

には米軍が占領

・南部では首里方面に米軍が進撃

激戦地：前田高地・嘉数高地

・日本軍は主力の8割を失い、5月下旬に

首里を放棄し本島南端の摩文仁に撤退

「鉄の暴風」

「捨て石作戦」

「住民の動員」

・鉄血勤皇隊

・逋信隊

・学徒隊

・女子挺身隊

■ 1945.6.23 組織的戦闘 終了

・牛島司令官ら自決

「最後まで敢闘シ悠久ノ大義ニ生クベシ」



太平洋戦争と沖縄戦②

■ 1945.6.23～ 組織的戦闘終了後も続く戦闘

- ・本土の防衛態勢を固めるため、米軍を沖縄にクギ付けにする

住民約10万人を含む
20万人超の戦死者

- 「捨て石作戦」続けられる
- ・「最後まで敢闘シ～」 「生きて虜囚の辱めを受けず」の教えにより
投降・降伏できず、自決や仲間に殺害される兵士・住民も

■ 1945.8.15 太平洋戦争 終戦

■ 1945.9.7 降伏文書調印式が行われ沖縄戦終結

【沖縄戦の特徴】

- ・子供を含む多数の住民が、米軍と「対峙」した唯一の地上戦
- ・「沖縄を守る」ためのたたかいではなく、「本土を守る」ための時間稼ぎのたたかい

【住民が犠牲になった歴史をまなぶ】

- ・対馬丸記念館（長崎へ疎開する子供たちが乗った船が米潜水艦の魚雷により沈没）、アブチラガマ（糸数壕）
- ・ひめゆり平和祈念資料館

沖縄の基地問題①

■ 土地の強制接收

- ・太平洋戦争（沖縄戦）中、住民は収容所に隔離。米軍に土地を強制的に接收され、利用価値の高い場所に飛行場や基地が建設される

※普天間飛行場敷地にも、戦前は宜野湾村役場や病院、国民学校などが存在していた

■ 銃剣とブルドーザー

- ・太平洋戦争終結後も、朝鮮戦争勃発など東アジアの緊張の高まりにより、沖縄の軍事拠点としての価値が高まり、米軍は武装兵らによる「銃剣とブルドーザー」で住民を追い出し、新たな基地建設が進む

■ 忘れられた島

- ・戦後、本土は復興する中、沖縄はほぼ放置状態。1949年5月に米政府は沖縄の分離統治の方針を決め、1950年2月にGHQが沖縄に恒久的基地を建設するという声明を発表し、沖縄の分離統治を決定。米軍による沖縄の基地化が進む

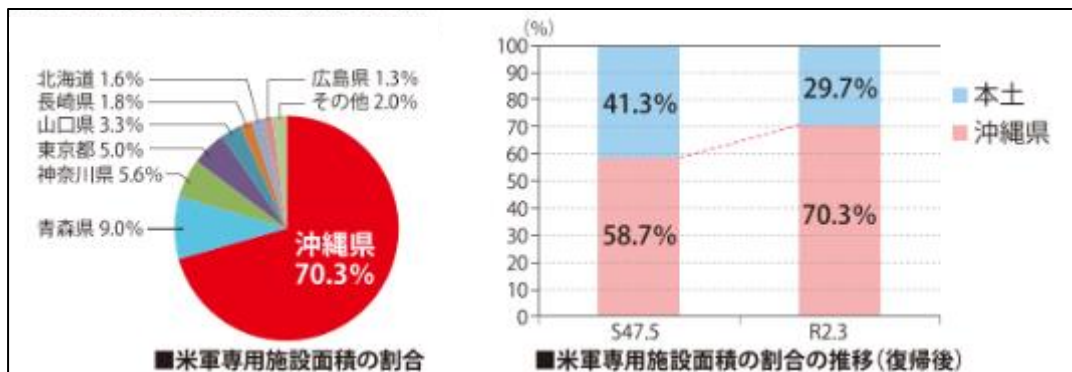
沖縄の基地問題②

■ 沖縄の米軍基地の状況

- 31の米軍専用施設※

※米軍専用施設.....自衛隊が管理する共用施設とは異なり、専ら日米地位協定のもとで管理、運営され、基本的にはその運用に国内法が適用されず、また、立ち入り許可なども米軍に裁量がある施設

- 総面積は1万8,484ヘクタール
- 沖縄本島の約15%が米軍基地
- 国土面積の0.6%しかない沖縄に
全国の米軍専用施設面積の**70.3%**が集中



沖縄の基地問題③

■ 米軍基地に起因する事故・事件

- ・ 1959.6.30 宮森小学校（現うるま市）に米軍機が墜落、炎上
児童11人含む17人が死亡、重軽傷210人
- ・ 2004.8.13 沖縄国際大学にヘリ墜落、炎上
- ・ 2016.12 オスプレイが名護市安部沿岸部に墜落、大破
- ・ 2018.12 飛行中のヘリから機体窓枠が宜野湾市内小学校の校庭に落下



など、沖縄の本土復帰（1972年）から2019年末までに811件の航空機関連事故
(年平均16.8件)

- ・ 1995.9.4 海兵隊員による少女暴行事件
- ・ 2016 米軍属の男が女性を強姦、殺害し死体遺棄する事件

など、1972年から2019年末までに6,029件の刑法犯罪（うち凶悪事件580件）
(年平均125.6件)

■ この他、環境問題（PFOS・PFOA：有機フッ素化合物）も...

沖縄の基地問題④

■ 日米地位協定の壁

日米地位協定・・・施設・区域のあり方や日本での米軍の地位について定めた協定

- ・「日米地位協定」により、事件を起こした米軍人の身柄は警察に引き渡されず、十分な捜査ができない。
- ・基地の外で航空機事故が起きても日本の警察が機体などを捜査できない、事故原因や環境調査のための立ち入りもできない。
- ・日米地位協定に相当する協定は、ドイツ、イタリア、ベルギー、イギリスも結んでいるが、日本だけ受入国が不利になっている。
- ・ドイツ、イタリアでは事件・事故をきっかけに改正されている。

ヨーロッパ各国との比較				
	国内法	管理権	訓練・演習	航空機事故
 日本	原則不適用	立入り権 明記無し	航空特例法等 により規制できず	捜索等を行う権利 を行使しない
 ドイツ	原則適用	立入り権明記 立入りパス支給	ドイツ側の 承認が必要	ドイツ側が現場を規制 調査に主体的に関与
 イタリア	原則適用	基地はイタリア司令部の下 伊司令官常駐	イタリア側の 承認が必要	イタリア検察が 証拠品を押収
 ベルギー	原則適用	地方自治体の 立入り権確保	自国軍よりも 厳しく規制	(未確認)
 イギリス	原則適用	基地占有権は英国 英司令官常駐	英側による飛行 禁止措置等明記	英国警察が現場を 規制・捜索

普天間飛行場

■ 世界一危険な飛行場

(米国防長官・ラムズフェルド：2003年)



■ 事故の多発

- 学校などの公共施設敷地内に部品落下の事故多発。

2017年12月13日、普天間飛行場に隣接する小学校に大型輸送ヘリの窓枠が落下。

- 安全であるべき場所で起きてはならないことが起きている。

■ 騒音被害

■ 令和元年度航空機騒音測定結果(抜粋)

飛行場	測定箇所	1日あたりの騒音発生回数	最大ピークレベル	平均ピークレベル
嘉手納飛行場周辺	北谷町砂辺	56.5回	116.1dB	91.2dB
普天間飛行場周辺	宜野湾市上大謝名	32.4回	124.5dB	90.1dB



デシベル(dB)	騒音の目安
120	飛行機のエンジンの近く
110	自動車の警笛(前方2m)
100	電車が通るときのガード下
90	騒々しい工場の中

※環境庁大気保全局編「騒音規制法の解説」より

辺野古新基地建設問題①

年月	動向	民意
1996.4	「普天間飛行場全面返還」日米合意（5～7年以内に） （過去の事故・事件や95年の少女暴行事件による反基地感情の高まり）	
1997.11	普天間返還は「県内移設」が条件とされていたため、政府は辺野古への海上ヘリポート案を提示	
1997.12	名護市で建設の是非を問う住民投票が実施され、「条件付き反対」を含め「反対」の総計が投票者総数の約53%を占める（投票率82.45%）	NO
	名護市長は自らの辞任と引き換えに、政府に移設容認を伝える	
1999.11	稲嶺恵一知事（当時）が移設候補地として、「キャンプ・シュワブ水域内名護市沿岸域」を選定し、名護市も条件付きで受け入れを表明	
1999.12	名護市長、普天間飛行場受け入れを表明、政府は条件付き受け入れに取り組む方針を閣議決定	
2006.4	日米両政府は辺野古新基地建設に関し、沿岸部を埋め立ててV字形の滑走路を建設する現行案で合意	
2009.8	衆議院選挙において「最低でも県外」を公約にした民主党が勝利し、鳩山由紀夫内閣が誕生	
2010.1	名護市長選挙で、稲嶺進氏が「辺野古に新基地はつくらせない」と公約を掲げ、当選	NO
2010.5	鳩山内閣が普天間飛行場の県外移設を模索するも断念し原案（辺野古移設）に近い状態を進めることを表明。その後、鳩山首相は退陣。	
2010.11	沖縄県知事選挙において、仲井真弘多氏が県外移設を公約に掲げ、再選	NO
2013.12	仲井真知事が辺野古の公有水面埋め立て申請を承認	
2014.11	沖縄県知事選挙において、翁長雄志氏が辺野古移設反対を掲げ、当選	NO
2018.9	翁長氏死去による沖縄県知事選挙において、デニー玉城氏が辺野古移設反対を掲げ、当選	NO
2019.2	「辺野古新基地建設のための埋め立ての賛否」を問う県民投票実施、反対71.7%	NO

辺野古新基地建設問題②

■ 辺野古の海（大浦湾）

ホープスポット・・・「世界に誇ることができる十分な科学的価値、文化的・歴史的・精神的価値のある海域」に日本で初めて選定されるなど、守るべき命・自然が多くある場所。



■ 大浦湾の軟弱地盤

- ・大浦湾海底にはゆるく柔らかいマヨネーズ状の地盤が広がっている
- ・深いところでは水面下90メートルが軟弱地盤の箇所もある
- ・地盤改良のためには7万本以上の杭を打ち込む工事が必要
- ・国内工事業者では、水面下70メートルまでの施工実績しか持たない
- ・工事費用は当初計画2300億円→9300億円
(約4倍・2019年政府試算)
- ・工事期間もこの先10年以上かかる見込み



辺野古新基地建設問題③

『辺野古新基地』計画図



2017/09/25 撮影

ヘリ基地反対協議会 2018年1月作成

辺野古新基地建設問題③

令和4年9月27日撮影

※ 米軍施設に関する情報を含んでいるため表示していません。



(写真引用) 令和4年10月4日普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境監視等委員会の資料より。

現地・オキナワのたたかい

■ 座り込み抗議

- ・ 民意を示し、強行される新基地建設工事を遅らせるため、キャンプシュワブのゲート前での座り込み。
- ・ 埋め立てのための土砂や碎石、セメントを積んだダンプ、生コン車の進入を1分でも遅らせる。
- ・ 工事車両が辺野古へ向かうのを遅らせるため、名護市の安和・塩川地区でも牛歩による抗議行動も行われている。
- ・ 以前は辺野古ゲート前の座り込みも24時間体制だった。そうしないと、いつでも工事車両が入ってしまうため。そのような抗議を続けることで、機動隊がいないと車両入場もままならなくなり、入場する回数も1日3回、時間を決めるようになった。
- ・ 非暴力の抵抗、抗議の意思を示すことで、国による違法工事を遅らせ、引き続き工事の中断・中止を求めてたたかっている。



最後に...

■ オキナワで何をまなぶか

【沖縄戦の歴史をまなぶ】

- ・ 対馬丸記念館（長崎へ疎開する子供たちが乗った船が米潜水艦の魚雷により沈没）、アブチラガマ（糸数壕）
- ・ 平和の礎

【基地問題をまなぶ】

- ・ 嘉数高台（普天間飛行場）、道の駅かでな（嘉手納飛行場） →平日なら騒音の状況も確認できる
- ・ 辺野古ゲート前

■ 百聞は一見に如かず

- ・ オキナワの歴史やいま起きていることは、オキナワだけの問題ではなく、私たち一人ひとりの問題
- ・ 組合がなぜオキナワや平和をまなび、かかわるのか
- ・ 戦争が起きていないから平和ではなく、社会や職場、地域、家庭が平和でないといけない
- ・ 再び戦争が起きたら...？
- ・ オキナワをまなびに行くことは、「百聞は一見に如かず」という言葉そのもの